

学び合い 認め合い 高め合う ～ 「よさ」に気付くための対話的活動を通して～

1 努力点設定の理由

AIをはじめとする様々な技術の進歩によって社会の在り方が劇的に変わる「Society 5.0時代」が到来している。また、新型コロナウイルスが世界的に感染拡大するなど、先行き不透明な「予測困難な時代」を迎えている。コロナ禍の中、学びを保障する手段としての遠隔・オンライン教育が注目されるとともに、従来のような対面指導や子ども同士による学び合いなど、直接的な体験を通じて学ぶことの重要性も改めて注目された。

それを受けて、令和3年1月の中教審答申では、ICTを活用した「個別最適な学び」と、探究的な学習や体験活動を通じた「協働的な学び」という、2本の柱で従来の日本型学校教育を発展させた「令和の日本型教育」を実現することを目指すことが示された。これによって、豊かな人生を切り拓きよりよく生きていくことや、持続可能な社会の作り手となることのできる生徒を育てることが求められている。

名塚中学校ではこれまで、「学び合う学び」を教育の柱と位置付け、学びの楽しさの感得と学力の向上を図るとともに、授業の中で対人関係スキルや自己有用感のさらなる高揚を同時追求してきた。令和3年度は、「学び合い」の中で互いの考えや過程を言葉で伝え合う授業づくりに重点を置き、対象や他者、自分自身の「よさ」に気付くことができる活動を追究することで、授業だけでなく学校生活全般において生徒が達成感や充実感を味わうことのできる学校を目指して教育活動を行ってきた。その結果、多くの生徒が、仲間と協力したり、考えを話し合ったりして、対話する活動やICT機器を用いた交流活動を取り入れた授業によさを感じ、新たな形の学び合いが生徒に定着しつつあることが、学校評価アンケートなどの結果から分かった。一方で、学校努力点のねらいであった、学校生活の中で「自分の力が発揮できた、役に立った」と実感することについては、目指す姿に到達するまで余地のあることが分かった。また、学校や学級といった集団の中に自らの「居場所」を感じられず、活動への参加や登校そのものが難しくなっている生徒もいる。その背景として、私たちは以下のような課題があるのではないかと考えた。

- ・自身の学びを振り返る際に、学びの過程で習得した知識・技能や、「学び合い」を通して身に付けた考え方などを明確にすることができていないため、自らの成長を実感し、達成感や自尊感情を十分に育むことができていない。
- ・「学び合い」の中で、考えを形成する過程や他者の考えの「よさ」などを明確にして伝え合うことが十分にできておらず、互いの自己有用感を高める効果を発揮できていない。

そこで、本年度も引き続き、学校努力点として「学び合い 認め合い 高め合う」を主題として掲げ、自分を振り返ったり、他者に認められたりすることを通して自尊感情を身に付け、たくましい姿で未来を切り開き、実生活で生きて働く生徒の資質・能力を育てていく。特に、副題の「『よさ』に気付くための対話的活動」に重点を置き、学び合いの中で互いの考えや過程、コツなどを口頭やICTを用いて伝え合うことで、「対象(=考えの基とした知識・技能や考えを形成する道筋など)」、「他者」、「自分自身」の、それぞれの「よさ」に着目したり、それらを用いることの価値を自覚したりすることができる授業づくりに重点を置くことで、主題に迫りたい。

2 学校努力点達成のための重点項目

- (1) 考えのよさに気づき価値を追究することができる授業を目指して
 - ① 教科のねらい(本時の目標)に基づいた授業デザイン(評価計画)の作成。
 - ② 生徒が既習の知識や考え方を総動員して思考することができる課題づくり。
 - ③ 学び合う授業における教師の居方・聴き方・語り方
- (2) 教師が学び合う機会の設定 … 一人1実践の公開授業研究
年間2回(2週間程度)の授業参観期間
 - ① 「学び合い」を通して、生徒が自分や他者の考え、考えの基となった知識・技能に対して、「よさ」を見出すことができているか。生徒の姿や学んだことを話題にする。
 - ② 学び合う授業での教師の役割を学び、普段の授業に生かす。